



上の絵は、今から約130年前の教科書に書かれているお話の挿し絵です。ヒントを頼りに、最後まで解けるか挑戦してみましよう！

第一問 上の絵に色をぬりながら、どんなお話か考えて  
みましよう！

皆さんはどんなお話を考えましたか？

約束のまどく、かたきを取らんとて、かに等  
 ハ、猿のるすをうかいひ、其家ふ入りおみ、  
 卵ハ、火鉢に、かにハ、水桶に、蜂ハ、ぜん棚  
 に、白ハ、てん志やうに、まんぶハ、たいどころ  
 にかくれて、猿のかへるをまち居たり。  
 猿ハ、それとも知らず、ゆふかた家にかへり、  
 て、火鉢に向ひくに、卵がふいにはぬ出し、  
 猿ハ、また、かにかほをよきたり。



より飛び出で、耳の穴をさせり。

猿ハ、あわて、かつて  
 へ行き、水桶にかほ  
 を入れたるに、かにに  
 はなをはさまれたり。  
 猿ハ、おどろきて、水桶  
 よりかほを出すや  
 いなや、蜂ハ、ぜん棚

上のページは、第1問の絵がはいっているお話の1場面です。このお話を  
 読んで、第2〜5問に答えましょう。

第2問 お話に出てくる道具の名前と写真を線で結びましょう！

① 火鉢 ひばち

② 水桶 みずおけ

③ ぜん棚 たな

④ 白 うす



ほかに「風呂桶 (ふろおけ)」や  
 「寿司桶 (すし  
 おけ)」などの種  
 類があります。



この臼の中に蒸  
 したモチ米を入  
 れ、上から杵 (き  
 ね) でついてお餅  
 をつくります。



寒いときに温ま  
 る道具です。上に  
 ヤカンをのせて、  
 お湯を沸かすこ  
 ともできます。



旅館や料亭など  
 でご飯を頼むと、  
 「お膳」の上にの  
 って出てくると  
 ころもあります。

第3問 二線の引いてあるひらがなは、昔の言い方で書かれています。□の中に「ひらがな」を入れて、今の言葉に直してください。

① かへる ↓ かえる (イベント：「行く」の反対は?) (帰る)

② ゆふかた ↓ ゆうかた (イベント：昼と夜のあいだ) (夕方)

③ かほ ↓ かお (イベント：体の一部分) (顔)

それぞれの字を漢字に直すと、イメージがしやすくなります。

第4問 く線のひいてある漢字は、昔の文字で書かれています。同じ形の字や、「たぐへん」に注意しながら、□の中のひらがなを入  
れひきまじょう！

① せんぶ・せむく ↓ □せん □せむく (ヒント：一番目は海藻の名前です)

(もじは「古」)

② 家ふ入りまみ ↓ 家□入り□み (ヒント：上の□は「母」の読み方、下の□は①と同じ字が入ります)

(上の□は「母」)

③ てんぢやう ↓ てん□やう (ヒント：家の中にあります。「志」をなんと読むかがポイント！)

(もじは「志」)

④ ろれ ↓ □れ (ヒント：これ、昔れ、あれ、われ)

(もじは「昔」)

⑤ ちた、か、うか、ひ、あわて ↓ □たが、うか□ひ、あわて□ (ヒント：前の字をくりかえして読んでみます)

(「ん」は一つ前の字をくりかえして読みます。「ん」が「ん」では「ん」を書きません)

皆さんは「漢字」「かな」「ひらがな」がつくられたことは知っていますか？「これ」の字は「へん」で「と」が「わ」です。

字の形をよく見ると、もよになった字の特徴が残っています。

タイトル ( ) **なるかに合戦** ( ) **なるとかにの物語** ( )

**最初の絵をよく見ると、猿と蟹の間に「おにぎり」があり、蟹が柿の種を持っていますね。このお話のあらすじを紹介します。**

(あらすじ)

昔あるで「ころに、猿と蟹がいました。ある日、蟹がおにぎりを拾うと、猿は蟹をだまして、持っていた柿の種とおにぎりを交換してしまいます。蟹は柿の種を持ち帰り、庭に埋めます。そして「早く芽を出せ柿の種、出さないとハサミで切りますよ」ところに、柿は芽を出し、立派な柿の木に成長して、たくさんの実をつけました。

ある日、猿が来て「木の上の柿を取ってあげましょう」といって木に登りますが、自分だけ柿を食べて、取ってくれません。蟹が怒ると、猿は「これでも食べろ」と<sup>しぶかき</sup>渋柿をぶつけて逃げていきました。かたい渋柿をぶつけられ、蟹はケガをしていますが、

ケガをした蟹のころに、卯、白、蜂、こんぶがお見舞いにやってきます。蟹から話を聞くと、「ひどい話だ。私たちがころにめよう」と約束して、猿がいない間に、猿の家に隠れました。

夕方になると、猿が帰ってきました。猿が火鉢へ向かうと、卯が飛び出して、猿の顔にぶつかります。猿はあわてて水桶に顔を入れると、今度は蟹が鼻をはさみます。驚いた猿が顔を上げると、次は食器棚から蜂が飛び出し、猿の耳を刺しました。猿は痛さで逃げようと思いますが、台所のこんぶですべり、ころんでしまいます。ころへ、天井から白が落ちてきて、猿を押しつぶしてしまいました。

**2枚目の挿し絵は猿をころにめる場面です。登場者の顔が卯、白、蜂であることに気が付きましたか？皆さんの中には「登場者が自分の知っているお話と少し違う」と思った人がいるかもしれませんが、同じお話でも、書かれた時代で少しずつ違うことがあります。面白いですね。**